

園芸タイムリー情報

《8月中・下旬版》

令和2年 8月18日発行 第7号
 上川農業改良普及センター
 Tel: 0166-84-2017 Fax: 0166-84-2009
 E-mail: asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage: http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

- 天気は数日周期で変わり、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か多い見込みです。
- ①ハウス内が高気温で経過する日が多くなるため、高温障害に注意します。
換気やかん水等を適切に行い、生育環境の確保に努めましょう。
 - ②台風や発達した低気圧による被害が発生しやすい時期となりました。
強風に備えて、ハウスの点検・補強を行いましょ。局所的な降雨を想定して、ほ場の排水対策やハウスの浸透水対策を早めに準備しましょう。
 - ③病害虫の多発時期となります。ほ場観察や予察情報に基づき、薬剤のローテーションを考え、適切な防除対策を実施しましょう。
 - ④余裕を持った作業計画を立て、健康状態を確認して作業を開始しましょう。
熱中症防止のため、適度な休憩と水分・塩分補給を行いましょ。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫生理障害名	コナガ成虫	
コナガ		
発生状況	幼虫による葉の被害	
中～多発生		
発生時期	コナガ幼虫	
5月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が葉裏に潜み、葉を食害する。 ・5月上旬に成虫の初発が確認され、5月下旬から幼虫の発生が見られている。 ・7月下旬以降、幼虫による被害が増加しているため注意する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内外の雑草をこまめに除草する。 ・防虫ネット（目合1.0mm）は、侵入口となる隙間を作らないよう設置する。 ・品目により薬剤の登録内容が違っているので、ラベルを確認してから使用する。 ・シアミド系（プレバソフフロアブル5等）の薬剤抵抗性個体群が出現している。防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病害虫生理障害名	キスジノミハムシ	
発生状況	多発生	
発生時期	6月上旬～	ラデッシュ根部食害
	キスジノミハムシ成虫 (体長2～3mm)	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。 ・気温の上昇に伴い、7月から成虫の発生が増加している。 ・8月上旬から特に被害が多くなっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 成虫期間：1～4ヵ月 ● 卵期間：5～7日 ● 幼虫期間：10～20日 ● 蛹期間：3～15日
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。 ・土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。 ・ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。 		
<p><防除の一例></p> <p>こまつな</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回 <p>チンゲンサイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回 <p>チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな</p> <ul style="list-style-type: none"> ● モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回 		

作物名	あぶらな科野菜全般
病虫害生理障害名	ウスカワマイマイ
ナメクジ類 カタツムリ類	
発生状況	
少～中発生	チャコウラナメクジ
発生時期	
5月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所を好み、地中で越冬する。 葉の食害の他、フンや本体の混入が問題となっている。 雨天時や夜間は活発に活動する。 秋に発生のピークとなる傾向があるため、今後は注意が必要。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> 常発ほ場では通気を良くして湿気を逃がす。 スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。 	
<防除の一例> ●スラゴ 1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時	


作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	アブラムシ類
発生状況	
少発生	
発生時期	すいかに発生したアブラムシ(上)ときゅうりの被害葉(右)
6月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。 ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 	
<防除の一例> ●ウララDF きゅうり 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 すいか・メロン 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●アディオン乳剤 きゅうり 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 すいか・メロン 2,000～3,000倍 収穫前日まで 5回以内	

作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	うどんこ病
発生状況	
中発生	
発生時期	写真上：きゅうりの葉表に発生した白いかび 写真左：株全体に多発した様子
7月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。 例年、生育後半に発生が多くなるが、本年の乾燥条件により発生が早まった。 過繁茂になると発生しやすい。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 初発を確認したら薬剤散布を実施する。 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。 	
<防除の一例> ●ポリペリン水和剤 すいか：1,000～2,000倍 収穫前日まで 4回以内 メロン：1,500～2,000倍 収穫前日まで 5回以内 きゅうり：2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ベルコート水和剤 すいか：1,000倍 収穫前日まで 4回以内 メロン：1,000倍 収穫前日まで 5回以内 きゅうり：2,000～4,000倍 収穫前日まで 7回以内	

作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害生理障害名	ハダニ類
発生状況	
中発生	
発生時期	きゅうり すいか メロン
6月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> 葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。 高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも増殖が早い。 	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。 ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。 	
<防除の一例> ●ピラニカEW すいか・メロン：2,000～3,000倍 収穫3日前まで 1回 きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 1回 ●カネマイトフロアブル すいか・メロン・きゅうり：1,000～1,500倍 収穫前日まで 1回	

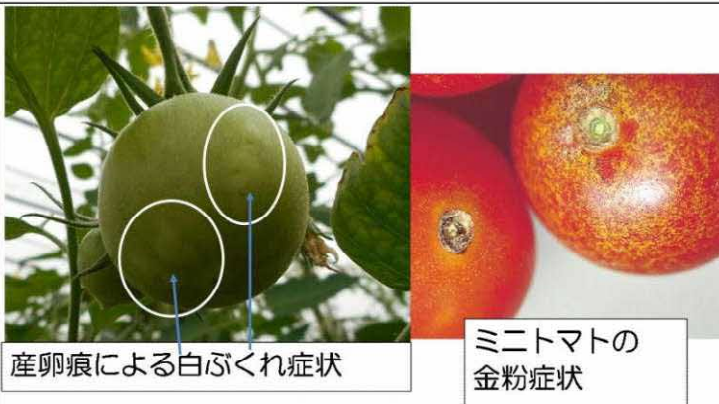
作物名	きゅうり
病害虫生理障害名	ベと病
発生状況	中発生
発生時期	7月上旬～
	
<p>葉裏に生じたカビ</p>	
<p>発生の状況・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 始めは、葉脈に囲まれた角形で黄色の病斑を形成し、古くなると褐変する。 • 褐斑病と良く似ているが、ベと病は病斑が黄色味を帯び、葉裏にかびを生じることから判別できる。 • 曇雨天が続いたり、ハウス内が多湿となると発生しやすい。また、肥料切れでも発生が助長される。 	
<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> • 適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 • 発病初期に防除を開始する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ライメイフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 4回以内 ●プロポーズ顆粒水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 	

作物名	きゅうり
病害虫生理障害名	褐斑病
発生状況	中発生
発生時期	7月上旬～
	
<p>発生初期の病斑 拡大した病斑</p>	
<p>発生の状況・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。 • ベと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。 • 生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。6～10月に多発する。 • 成づかれにより、草勢の衰えている場合に多発しやすい。 • ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことのあるほ場では特に注意が必要となる。 	
<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> • 適正管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 • 昨年発生したほ場では、予防防除を行う。 • ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。 • 薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤は連用しない。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●セイビアーフロアブル20 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 ●プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 収穫前日まで 3回以内 	

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん
病害虫生理障害名	モモアカアブラムシ
アブラムシ類	
発生状況	中発生
発生時期	6月上旬～
	
<p>白い抜け殻と甘露による汚れ</p>	
<p>発生の状況・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> • モモアカアブラムシの発生が目立ってきている。 • モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。 • ワタアブラムシの体色は黒、緑、黄で、下葉の葉裏に多く見られる。 • ジャガイモヒゲナガアブラムシはやや大型で、上位葉への寄生では葉の変形や黄化が見られる。 	
<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発生初期は一部の株に寄生が集中するので、マルチに落ちた白いゴミのような抜け殻や甘露（べとべとした排泄物）を手がかりに発生を見逃さないよう努める。 • 下葉の裏側や、重なり合った葉、生長点付近の未展開の葉等に寄生している場合が多く、薬剤がかかりづらいので、丁寧に行う。 <p><防除の一例>カブリダニ類の導入時にも使用可能</p> <p>ピーマン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p>ピーマン・ししとう・なんばん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ししとう・なんばん ●スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内 	


作物名	ピーマン
病害虫生理障害名	菌核病
発生状況	少発生
発生時期	7月下旬～
	
<p>茎葉での発生 果実での発生 ほ場では褐変し、かびは見られない。</p>	
<p>発生の状況・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 夜温の低下と共に再び発生が見られ始めている。 • 20℃以下の多湿条件で発生しやすい。 • 茎に発生した場合は、発生部位から上の茎葉が萎凋枯死する。 • 果実では褐変腐敗し、幼果では腐敗落果する。 	
<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> • 多湿が多発の原因となるので、ハウス内の換気に努め、茎葉が繁茂している場合は下葉を除去するなどして通気性を確保する。 • 芽かきや摘葉は晴天時の午前中に終わらせ、傷口を十分に乾かす。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロブラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ※ ●ロブラールくん煙剤 100g/300～400㎡ (床150～200㎡×高さ2m) 収穫前日まで ※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内 	

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
コナジラミ類		
発生状況		
少発生		
発生時期	7月下旬～	
	幼虫	成虫
	茎葉や果実のすす病	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 7月下旬にミニトマトでオンシツコナジラミの発生が見られた。 茎葉を揺ると体長1mm前後の白い成虫が舞うように飛ぶ。 中下位葉の葉裏には長楕円形で平たい幼虫や蛹が見られる。 排泄物が茎葉や果実の表面に堆積したところにかびが生えるすす病が問題となる。 高温期には増殖が早いので注意する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 発生を見逃さないように注意し、薬剤防除を実施する。 黄色粘着板は本種の予察に有効である。 		
<防除の一例> ●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●ウララDF 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モスピランジェット 50g/400㎡ (面積200㎡×高さ2m) 収穫前日まで 3回以内 ※モスピラン顆粒水溶剤とジェットは合わせて3回以内		

作物名	トマト類 (大玉、ミニ、中玉)	
病虫害 生理障害名		
アザミウマ類		
発生状況		
少発生		
発生時期	6月中旬～	
	産卵痕による白ぶくれ症状	ミニトマトの金粉症状
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> トマトで産卵痕による白ぶくれ症状が見られている。 高温乾燥時に多発する傾向にあるので、引き続き発生に注意する。 葉にかすり状の白い食害痕や、果実への産卵で白ぶくれ症状が発生する。 ミニトマトではミカンキイロアザミウマの食害で金粉症状を示す。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ハウス周辺の雑草が多いと侵入が増えるので除草する。 発生初期に薬剤散布する。 青色粘着板は本種の予察に有効である。 		
<防除の一例> ●ディアナSC アザミウマ類 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ウララDF ミカンキイロアザミウマ 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●モスピランジェット ミカンキイロアザミウマ 50g/400㎡ (床200㎡×高さ2m) 収穫前日まで 3回以内		

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
トマトサビダニ		
発生状況		
少発生		
発生時期	7月中旬～	
	褐変した茎葉	果実での被害 (さび症状)
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 7月中旬にミニトマトで発生が見られた。 初めはハウス内の一部の株の下葉で発生し、徐々に上位の茎葉や隣接する株に広がる。 葉は先端から黄変し、やがて褐変し落葉する。茎はほこりを被って汚れたように褐変し、果実はくすんだようなさび症状となる。 高温乾燥時に発生が増加する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 高温期は増殖が早いので発生を見逃さずに薬剤防除を実施する。 		
<防除の一例> ●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ※上記の剤は浸透移行性がないため、発生している株や周囲の株に葉裏等までまんべんなくかかるよう丁寧に散布する。		

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
うどんこ病		
発生状況		
中発生		
発生時期	8月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 一部ほ場で発生が見られた。 葉の表面にうどんこを振りかけたようにかびが密生している。 発生が増加すると果柄・へたなどにも発生する。 20～25℃の乾燥条件で発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 初発が確認されたほ場は早めに薬剤散布を実施する。 被害葉や果実は摘除し、残さはほ場外へ搬出する。 		
<防除の一例> ●ハーモメイト水溶剤 800～1,000倍 収穫前日まで 回数制限無し ●トリフミンジェット 50g/容積400㎡ (くん煙) 収穫前日まで 5回以内 (※) ※トリフミンジェットは水和剤と合わせて5回以内		


作物名	パセリ
病虫害生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
8月上旬～	

発生の状況・要因

- ・葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。
- ・気温28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。
- ・8月上旬以降、発生が見られるので注意する。

対策

- ・ほ場を乾燥させすぎない。
 - ・発生前から予防的に薬剤散布を実施する。
 - ・発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。
- <防除の一例>
(発生前)
- クリーンカップ 1,000～2,000倍 収穫前日まで -
 - クムラス 500～1,000倍 - -
- (発生前～発生初期)
- アフェットフロアブル 2,000倍 収穫3日前まで 2回以内

作物名	きく (スプレー)
病虫害生理障害名	
花腐症	
発生状況	
中発生	
発生時期	
7月下旬～	

発生の状況・要因

- <現在の発生状況>
- ・シェードによる多湿条件より感染する。
 - ・出荷時は確認できないが、市場到着時に褐変が見られる。

対策

- ・シェード時、裾も15cmほど開放し、通気性を確保する。
 - ・膜割前までに定期的な予防防除を行う。
- <防除の一例>
- アフェットフロアブル 2,000倍 発病初期 3回以内
 - ポリバリン水和剤 1,000倍 発病初期 8回以内
- ※花卉出現後は葉害が生じるおそれがあるため、薬剤防除は避ける。

作物名	花き類全般
病虫害生理障害名	
アザミウマ類	
発生状況	
中発生	
発生時期	
7月上旬～	

発生の状況・要因

- ・特に夏期の高温期での被害が多く、花粉・花弁を食害する。
- ・現時点で花蕾への発生が多く、花弁に褐変(きく)や白いかすり症状が目立っている。

対策

- ・定期的薬剤防除の徹底を図る(7日間隔)。
- <防除の一例>
- ダントツ水溶剤 2,000～4,000倍 発生初期 4回以内
 - アグリメック 500倍 発生初期 5回以内
 - ディアナSC 2,500～5,000倍 発生初期 2回以内

作物名	花き全般
病虫害生理障害名	
灰色かび病	
発生状況	
中発生	
発生時期	
7月中旬～	

発生の状況・要因

- <現在の発生状況>
- ・きくでは、わき芽取り除いた跡、摘蕾跡から感染する。
 - ・シヌアータはがくのつけ根や採花後の切り口に発生する。今後、降雨による高湿度条件により、発病が蔓延する可能性が高いので注意する。

対策

- ・ハウスの換気、通気性の改善
 - きくでは、ハウスの裾はできるだけ開放し、またシェードの裾も15cmほど開ける。
 - ・午後からのかん水は控える。
 - ・発病すると蔓延が早いので、発病前に定期的な予防防除を行う。
- <防除の一例>
- セイビアーフロアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内
 - フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内
 - ポリバリン水和剤 1,000倍 発病初期 8回以内
- ※莖葉部だけではなく、地際部にもしっかり散布する。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
- なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)

※掲載されている農薬情報は、令和2年8月12日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【農作業事故防止編】□■□■□■□

— 農作業事故防止は日頃の安全確認から —

- ・機械の点検や清掃、異物除去などを行う際は、機械を完全に停止し、安全を確認した上で点検・調整を行いましょ。
- ・ほ場や作業道、施設等に危険な場所がないか、日頃から確認を行いましょ。
- ・危険を伴う作業(高所作業等)を行う際は、安全を確保するための適切な服装・装備を着用し、安全確認を必ず行いましょ。
- ・作業はできるだけ2人以上で行うか、定期的に声かけや異常がないか確認し合いましょ。離れたほ場で作業をする場合は、あらかじめ、作業ほ場を家族等に知らせましょ。

